

令和6年度 普及指導活動外部評価委員会（開催日：令和7年2月4日）  
「評価委員からの意見」及び「次年度の活動について」

島根県農林水産部農業経営課

課題名	評価項目				次年度の普及活動改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
4町村連携による「隠岐産牛」としての産地づくり	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県基本計画を背景に、地域課題の畜産振興に向けて関係者による広域の協議会を立上げ、強い連携の下で取り組みを進める体制は大変評価できる。</li> <li>■ 繁殖雌牛と出荷頭数の増加に対する数値目標、農業産出額拡大の数値目標設定はわかりやすい。</li> <li>■ 隠岐地域の肉用牛の農業生産額は全体の75%を占めており、更なる隠岐地域の畜産振興のために4町村共通の課題解決に着目したことが評価できる。</li> <li>■ 肉需要の高まりから肥育牛だけでなく繁殖雌牛の強化をいう2つの軸での取り組みは珍しいと感じたし、とてもいい計画に感じられた。両方とも隠岐産牛の価値を高めようという意思のある計画であった。</li> <li>■ 隠岐の畜産業が直面する問題と「農林水産基本計画」を踏まえた、具体的かつ実践的なプロジェクト課題が設定されていると思う。4町村の繁殖生産者が県の指導を受けながら主体的に活動していることがわかりやすく、理解できた。</li> <li>■ 移動、交流が困難、かつそれぞれの意識がバラバラな中、4島を一つにした取組は評価できる。</li> <li>■ 全国和牛能力共進会、全国肉用牛枝肉共励会では最高賞を獲得し、全国に名前を知られる島根和牛の産地で</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 産地ビジョン実現のための道筋の説明は理解しやすいフローであり、課題解決へ向けたテーマが良くわかる。</li> <li>■ 課題解決向け島内畜産関係者が密接に連携されていることが理解できた。</li> <li>■ ビジョン達成に向けて4町村が一体となった取組ができるように「隠岐牛生産拡大協議会」の立ち上げをしたことが評価できる。</li> <li>■ 産地ビジョンまでの道筋からの活動内容が非常によかった。それぞれの課題をどう取り組みクリアして市場価値を高めていくか、繁殖頭数を増やしていくかが良く分かった。4町村連携も離島というハンデについてネット会議を使うことで不を解消し密な連携がとれているように感じた。</li> <li>■ 技術支援だけでなく、販路拡大等、経営面への支援、4地域のそれぞれの生産者が孤立しないようなとりくみについて、ハード・ソフト両面においてきめ細かな支援がなされていた。</li> <li>■ ビジョン実現のための道筋や、各関係機関との役割分担について明確にされている。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 受精卵移植への参画、市場における日齢体重の向上、隠岐産素牛東京枝肉研究会などから活動成果、普及対象の意識変化、波及効果がよくうかがえる。</li> <li>■ 繁殖雌牛、出荷頭数の増加に影響の大きい若手農業者の確保が進んでいることは、最も大きな成果。</li> <li>■ 4町村連携を可能にし、関係機関一体で目標達成に向け活動し、産地化に向けた生産者や関係機関の意識変化が見られ、技術面の継続や取組農家も増えたことが評価できる。</li> <li>■ 活動成果としてはすばらしいと感じた。特に若手担い手が増えていること。また今まで0件だった受精卵移植の参加が大幅に増えたことなど数字として表れていることは活動の励みにもなると感じた。</li> <li>■ 産地化に向けた意識変化も表彰などフィードバックすることで生産者の意識やレベルを上げていると感じた。</li> <li>■ プロジェクトの成果を見ると、4町村の連携、産地化に向けた意識変化、新たな担い手確保等、短期間ではあるが、プロジェクト指導の成果が明確に出ている。</li> <li>■ 島である事がマイナスだった話し合いも、Webでの会議等によ</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 課題解決のフローが的確であった。</li> <li>■ 道筋から位置付けた主な活動も適当と感じた。</li> <li>■ 課題背景(例えば離島というリスクなど)着眼視点や目標立案と成果達成に向けて活動した農業普及員の資質向上が評価できる。</li> <li>■ 隠岐の特徴を生かしたよい取り組みだと感じた。隠岐産牛のブランド力向上を肥育、繁殖の両面から取り組んだことはおもしろいと思った。</li> <li>■ 本事例は、4町村の生産者や新規就農者を確保・育成しながら、地域内の質の高い隠岐牛の生産性向上に大きく貢献していると思う。</li> </ul>	

	<p>あり、観光では牛突きなども知られる隠岐を選定したこと。</p> <p>■ブランド力向上に向けた増頭、販売額の目標設定等明確に定め、4島連携での取り組みは評価に値する。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■「隠岐牛生産拡大協議会」自体の仕組みや取り組み内容はよくわかるが、この協議会以外の畜産生産者との関係性や、JA等関係諸機関との関係性が、報告の中では不明瞭であった。</p> <p>■農家の高齢化の改善については分からなかった。</p> <p>■農業者所得にどこまで反映されているか不透明。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■地域課題として列記した「牧野を活用した生産性向上」「隠岐産牛のブランド化」に関する評価指標と成果を聞き取った。</p> <p>■多様な視点から問題、課題に着目し、5つの成果目標が適切に作成されている。</p> <p>■4町村が連携しながら市場での地位獲得を目指す過程が良く示されていると思う。</p>	<p>■隠岐牛の特徴を活かした繁殖能力・子育て能力が高いポイントを生産者に対し研修し、意識醸成を行ったこと。</p> <p>■産地化、ブランド化に向けては効果的な取組だった。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■JA等関係諸機関や隠岐の協議会のメンバー以外の生産者との連携内容が不明瞭だった。</p> <p>■放牧を行うにあたり、公共牧野を再生するのに無線傾斜地トラクターの導入に今後実際どの位の費用がかかるのか、それが農家の負担にならないか説明がなかった。</p> <p>■4島別の市場開催にはコストも掛かる。バイヤーの招致や開催方法も今後検討するべき。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■4町村の子牛生産者に対する支援がきめ細くなされており、生産者にとって負担が大きく軽減され、心強いと思った。</p> <p>■農研機構西日本農業研究センターや機械メーカーとの連携で、雑灌木除去技術の実証など、隠岐の自然を活用した自給飼料確保への誘導は低コスト化やSDGsの観点から評価できる。</p> <p>■隠岐＝水産のイメージが強すぎて農畜産のイメージがなか</p>	<p>り4町村で取り組むことが可能になったことは評価できる。</p> <p>■新規就農者の取り込みは評価。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■繁殖雌牛と出荷頭数の増加に関する達成状況、農業産出額拡大の状況について実績数値が無い。</p> <p>■4町村の生産者自体の経営改善の状況が示され、普及指導との相関が示されると良いと思う。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■日齢体重の目標について、島内市場との比較でなく、県内平均、全国数値との関係が知りたかった。</p> <p>■購買者と連携した隠岐産素牛東京枝肉研究会での「隠岐牛らしさ」のPRは評価できる。更には、全国の一般消費者に向けて隠岐牛のおいしさ(育った環境等)を隠岐観光と合わせてPRしてほしい。</p> <p>■島根県の畜産振興にとっても、本プロジェクトの取組はとても意</p>	<p>■支援主体が支援のスキルをどのように向上しているかが、もう少し詳細に示されると良いと思う。</p> <p>■隠岐の観光と交えて隠岐牛の産地づくりをして欲しい。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■隠岐産素牛東京枝肉研究会の成績を発表資料として提示し、隠岐産牛の能力とそのブランド化の可能性のアピールがあってもよかった。</p> <p>■隠岐産素牛の振興について課題解決に向けて農業普及員の資質向上が図られたので、今後は、全国の一般消費者に向けて、</p>	<p>○高齢化や担い手対策については、町村の定住部門との連携を強化するとともに、就農パッケージの見直しも図り、新規就農者の確保や第三者継承、親元就農も含めた対策強化を進めていく。</p> <p>○産地の状況を把握するために農業産出額等の実績数値は継続して把握しており、今後も、これらの数値を踏まえ活動の評価・改善につなげる。</p> <p>○生産者の経営改善に向けては、マーケットデータを活用した発育改善がモデル農家において市場価格の向上等成果に繋がっていることから、指導対象を広げるとともに、GAP手法を用いた経営改善なども併用した指導を強化していく。</p>
--	---	--	--	--	---

		<p>なかしにくいように感じた。一般の方に対し就農パッケージのアピール含めもっと認知が広がればよいと思う。</p>	<p>義が大きく、プロジェクト期間が終了した後も、このような取り組みや活動が継続されることを望む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 隠岐産牛としての取り組みとしては素晴らしいと思った。しかし、隠岐の特色を生かしたすばらしい事例であるだけに、他の県内生産者へどのように成功事例として波及していくかが少し見えない。</li> <li>■ 一定の年月をかけての成果と思われるので、地道な取り組みの中で成果を上げて頂きたい。</li> <li>■ 産地ビジョンにより、農家等の意識変化が見られ、受精卵移植に参加する農家が増えた事で、優秀雌牛増産に今後に期待したい。</li> </ul>	<p>隠岐牛のおいしさを他団体とコラボしてPRしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 非常にわかりやすい発表と資料であった。</li> <li>■ 今後隠岐産牛の市場価値(肥育、繁殖両面)がいまよりさらに上がることを楽しみにしている。</li> <li>■ 多岐にわたる専門知識が必要と思われる取組であり、コーディネート推進する立場として、更なる尽力を期待する。</li> <li>■ 今後、新規就農者のみならず、中核的な農家へ支援が必要になって来るのではないか。中核的な農家が手本になって新規・若手の育成に期待したい。</li> </ul>	<p>また、改善事例をまとめた事例集を作成し、その改善手法の波及を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 隠岐産牛の販売・ブランド化については、品質に限らず、育った環境も含めたイメージ戦略も検討していく。</li> <li>また、隠岐の子牛市場の在り方については、町村、JA、生産者などの協議を引き続きサポートしていく。</li> <li>○ 公共牧野の有効利用や自給飼料の利用拡大などについては、新たな仕組みづくりなど低コスト生産に向けた支援を更に強化していく。</li> </ul>
--	--	---	--	---	---

課題名	評価項目				次年度の普及活動改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
地域農業の維持発展の仕組みづくり	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県基本計画に掲げる集落での営農の継続に向け、管内の複数の集落を取り上げて活動、その中のモデル事例の経過をわかりやすく解説できている。</li> <li>■ 関係機関とも密接に連携し「地区住民主体で地域農業を守っていくための仕組みづくり支援」と課題設定が明確であった。</li> <li>■ 農業を取り巻く環境の変化に対応し、地区住民主体で地域の人のつながりを大切に、地域のくらしと地域の農業を守っていくための仕組みづくり支援を考えたことが評価できる。</li> <li>■ この地域だけが直面する課題ではなく全国どこでも高齢化+人手不足で同じような悩みを抱えていると感じている。その中でモデル地区を選定しどう支援していくか、関係機関をどう連携させていくかについて興味をもたせてくれる活動であった。</li> <li>■ 本活動の対象事例は、集落維持に必要な取組を行う機能が弱体化している、管内の集落の中でも特に条件不利地域であり、同様の問題を抱える集落にとって、モデル的な事例となりうると思う。直面している問題の把握や課題設定においても、現地の自治体や住民らから意見を実際に聞いており、非常に具体的であると考えられる。</li> <li>■ 現状をしっかりと分析され、目標とキーワードが明確化出来ていると思う。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「地区農業の道しるべ」で整理された地区ビジョンが分かりやすく、効果的・効率的であると評価できる。</li> <li>■ 関係機関と連携し、対象地域内の推進役を選定、信頼関係を構築しつつ、ビジョンをまとめ、地域全体のビジョンとしての合意を得る手法は効果的で高く評価できる。</li> <li>■ 「地域の農業を考える会」が既に設立されており、そこと一緒に活動を進めたことは地域農業の困りごとがつぶさに分かり活動に活かしたことは効率的だった。</li> <li>■ 生産者グループと何度も話し合い課題を引き出し、当事者意識を持って一緒に取り組まれた点が評価できる。それを細かくビジョンに落とされているいろいろな視点からの取組みが提案されており、関係者が本気で農業と地域のことを考えているのが強く感じられた。</li> <li>■ 生産者だけでとどまらず地域全体を巻き込んだ取組まで進化させたことにも驚いた。それぞれのグループがビジョン実現に向け明確に役割分担もされ活動計画に熱意を感じた。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 成果目標の達成に至る経過がよく理解できた。</li> <li>■ 普及対象の意識変化が、信頼関係の構築、ビジョン作成、地域合意、地域での実践体制づくりへと進む過程で十分感じられた。加えて、ビジョンの実践が始まったことからその成果は大きい。</li> <li>■ 管内の同様な課題を抱える地域へ波及できる成果と感じる。</li> <li>■ 今後の展開の説明にファンづくりイベントを検討するという項目があり、人口減対策、担い手確保のため、関係人口を増やすためにも今後の活動に期待したい。</li> <li>■ 活動の成果がわかりやすく示されていた。</li> <li>■ 地元の意欲高揚を感じた。</li> <li>■ 農家以外も含め住民全員で構成するまちづくり委員会に農業・農地保全部が設立されたことは評価できる。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 普及活動の背景、普及対象へのアプローチ、課題解決に向かったビジョン作成、さらに実践へと向かう普及活動について担当普及員の資質の高さを感じた。</li> <li>■ 普及活動の発表に関し、地域概況を数値や他地域との比較で分かりやすくし解説し、地域住民の意識が変化する過程が良く理解できた。</li> <li>■ 地域住民主体で地域農業を守っていくための仕組みづくり支援として、地域の人の声を聴いて地域の人の想いを知ることから始めたこと。</li> <li>■ 住民同士の横のつながりがどんどんなくなってきている中で集落が一つになって地域のことを本気で考えて良くしていこうというのほとても大切なことだと思う。これから活動が本格化していくと思うが、他地域のいいモデルになり得ると思う</li> </ul>	

	<p>■全国的な問題である農業者の高齢化、過疎化を改善するための課題設定である。</p> <p>■着眼点は島根全域にとって重要なマター、是非モデルケースとしての成果を期待する。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■浜田市や JA 等、関係諸機関、設定された課題に関係する専門の方などとの関係性がわかりにくかった。</p> <p>■「残された課題」を実践することにより、担い手の所得確保・向上に向けた取り組みとなることを望む。</p>	<p>■住民たちからの聞き取りをふまえた「農業の道しるべ」やスケジュール案が具体的・詳細に作成されており、取り組みやすいと思った。</p> <p>■地域集落主体の組織計画であることは大切と感じた。</p> <p>■地区の関係機関や、農業者への聞き取りで、より取り組みの必要性を対象地区の住民が意識できる、再認識できたことが評価できる。</p> <p>■ビジョンの作成を評価、引き続きバージョンアップ版に向けて取り組んでほしい。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■組織体制、プロジェクトチーム編成人員など具体的にわかりにくかった。</p> <p>■プロジェクトの取組の背景は理解できたが、実施主体の支援体制が具体的に示されていないため、実施主体が地域農業の仕組みづくりにおける情報やノウハウをどのように蓄積したかがわかりにくかった。</p> <p>■農業自体がビジネスプランとして成り立つよう尽力願う。</p>	<p>【改善が必要な点】</p> <p>■活動の成果はわかりやすく理解できるが、成果に至るまでの過程についても分析されると、達成できたこととできなかったことの比較分析も可能になると思う。</p>	<p>のでぜひ頑張ってもらいたい。</p> <p>■本事例は、農用地保全、地域資源活用、生活支援など、地域を維持するために地域住民が主体的に活動し、地域の維持に取り組むことに、大きく貢献していると思う。</p> <p>■定期的な会議に出席することで住民との信頼関係ができた事。一方的な進め方ではなく、ヒントを出すなどのファシリテーターとしての活動。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■支援主体が支援のスキルをどのように向上しているかが、もう少し詳細に示されると良いと思う。</p> <p>■報告書には地域住民の意思決定に対し、必要以上に介入することなく、主体性を尊重し引き出す工夫が示されていると良いと思う。</p> <p>■ビジョン策定で満足せず、これからの実践になにより期待。</p>	<p>○地域農業を守っていく取り組みは、地域住民が主体性を持ち、活動を続けていくことが必要不可欠であるため、農業振興部ではファシリテーターとして地元の意欲や意見を引き出すことができるよう留意して普及活動を進める。</p> <p>○担い手の所得確保については、タラの芽等の栽培を通じて農閑期の労力の有効活用や、収益向上に向けた支援を検討する。</p> <p>○支援体制については、行政および JA 等</p>
--	---	--	---	--	---

	<p><b>【自由意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 農業の継続ができる仕組みづくりという、適切な成果目標だと思う。</li> <li>■ 課題の設定や計画が、現在、国も注目している農村 RMO の考え方に共通する部分が多いと感じた。</li> <li>■ 地域計画の策定についてであるため、初めの一步だと感じるが、本来であればそこに農業団体が巻き込まれるべきと感じた。</li> </ul>	<p><b>【自由意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ まちづくり委員会に「農業、農地保全部」を設立することが正式に承認され、ビジョン実践のための体制が整ったことが、地域農業を守っていくための仕組みづくりの呼び水になりうると思う。</li> <li>■ 恐らく、県以外の関係諸機関や多様な人材との連携や役割分担はなされていると思われるが、そういったことが報告では示されていないので、少しわかりにくかった。</li> <li>■ 概ね、関係機関の役割分担は理解できるが、明確化すると更に前進できるのでは。</li> <li>■ 住民も、漠然としていたものが、実際視察を行い、具体的に活動している事例を自分事として意識改革出来ていると感じた。</li> </ul>	<p><b>【自由意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビジョンの実践に関する地域活動への支援を引き続き期待する。</li> <li>■ 担い手の方の感想に、地域に愛着があるとか、この活動に感謝されているなど、地域の団体、人とつながること。地域のくらしを応援伴走する想いでの活動を今後も大切にしてほしい。</li> <li>■ 農業の道しるべを作成することができているため、今後も、住民にとって、それに向かって取り組みやすいと思う。この地区での取り組みは、農業関係者だけにとどまらず、地域全体にとっての活性化につながると思う。また、関係人口を増やすことにもつながると思う。</li> <li>■ これから本格的に活動に入っていられると思う。活動していく中でいろいろ課題等も出てくると思うが、生産者だけでなく地域住民でいい方向に向かうことを期待している。地域のファンづくりの活動など他地域のいいモデル事例となることを期待する。</li> <li>■ 課題が多いだけに、全ての地域に対応できない部分もあろうかと思うが、「道しるべ」の図は大変解りやすく、今後、取組む者やコーディネートする者に対して大変参考になると感じた。</li> </ul>	<p><b>【自由意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 今後も「まちづくり委員会」や「考える会」など、地域の組織とつながること、相乗りすることが大事だと思うので一層の活躍を期待したい。</li> <li>■ 地域住民の取組に対して、適度な伴走をこれからも継続していただけると、良いと思う。</li> <li>■ 生産者だけでなく地域全体を巻き込んだとてもよい事例であった。これからの活動に期待している。</li> <li>■ 地域計画は、コーディネートする者の手腕が必ず必要と感じる。更にご尽力頂きたい。</li> <li>■ 住民の本音が聞ける信頼関係が築けたことは今回のみならず今後の活動にプラスになると思う。</li> <li>■ 実践の成果が何より大事。趣旨が広域での課題であることからモデルとなる取り組みに期待する。</li> </ul>	<p>の関係機関の支援体制について再度整理を行い、支援手法の見える化を図る。</p>
--	---	--	---	--	--

課題名	評価項目				次年度の普及活動改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
集落営農の経営改善のための水田園芸の推進	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県基本計画に掲げる集落営農の経営改善を、同じく振興施策の水田園芸の推進としてキャベツ栽培を導入する背景はよく理解でき、普及性の高いテーマを選定している。</li> <li>■ 現地課題を明確に抽出し、取り組む課題と目標がわかりやすく整理されている。</li> <li>■ 課題の一つである栽培技術の定着に関しては、水稻の2倍を超える売り上げを目標に、単収と単価を設定し、構成要素である植え付け本数、収穫率、球重の数値目標を掲げ、明確なアプローチができています。</li> <li>■ 米価の低迷、異常高温による減収や品質劣化で収益低下により経営が不安定化しており、その脱却を図るために加工・業務用のキャベツを営農体系に組み入れたことが評価できる。</li> <li>■ 課題の背景が社会情勢の変化(米の高騰)から少しずつしてしまったことはあるが、本来米の値段が下がり続けていたため課題のとらえ方と狙いはわかりやすく他の地域への波及も期待できるものだと思われる。</li> <li>■ 水田農業から、需要が見込める作目(業務用キャベツ)に転換するという着眼点は評価できる。</li> <li>■ 水田園芸のほ場リスク(湿害等)を十分に把握されている。</li> <li>■ 具体的な目標設定(収量)での取り組みは評価。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設定した課題に対し、論理的な目標を掲げ実証、効果的、効率的な普及活動が行われていた。</li> <li>■ ほ場整備を契機に多くの法人が加工・業務用キャベツを営農体系に組み入れたことで大区画ほ場での栽培メリットを示し、ほ場整備後の本格栽培を見据えて大区画ほ場での栽培を誘導したことが評価できる。</li> <li>■ 課題に対しそれぞれ適切な対応・活動をされているなど感じた。今までの失敗が確実に改善される取組みは聞いていてわかりやすかった。</li> <li>■ ほ場の整理や機械導入による省力化など効率向上を高め、今後人手不足が深刻化になっていく中で必要な取組みに感じた。</li> <li>■ 問題の所在とそれに基づき設定された課題が細かく具体的であった。集落営農法人も、指導に基づき実践することで、成果が数値的にも視覚的にも実感できていると思う。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 成果目標達成への手法、成果が極めて分かりやすく解説されている。</li> <li>■ 目標の数字にはやや不足するも、前年の実績から大きく引き上げている。</li> <li>■ 普及対象の前向きな声、意識を導き出せた普及活動は高く評価できる。</li> <li>■ 目標収量に届かずキャベツ部門単体での収支は赤字であるが、今後に向けての課題技術向上と人員やほ場条件に合わせた栽培や地域全体への生産向上のためのいくつかの体制整備の必要性をきちんと考え出している。</li> <li>■ 3つの課題(栽培技術、農地利用、機械導入)に対して活動全てで成果がでていてすばらしいと感じた。球重は惜しくも少し及ばないものの数量は達成され生産者さんのモチベーションも上がったことと思う。農地も大区画になったことで利用率も上がり、機械導入による省力化による生産性アップもいい点であった。課題に対しての成果としては十分なものだったと思う。他地域、他の生産者さんの参考になるいい取組みであった。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前年の実績から大きく引き上げた普及指導員の手腕を評価。また資質の向上が図られたと思われる。</li> <li>■ 発表資料は極めて分かりやすく高く評価したい。</li> <li>■ ほ場整備された大区画の水田でのキャベツ栽培で農家の収益増を図り、機械導入により作業(労働)負担軽減につなげて、女性の活躍の場が広がることに期待。</li> <li>■ 課題に対しての対応が明確で確実な対応を取られたことによる大幅な数値改善は素晴らしいと思った。他地域への波及も期待できる内容と感じた。</li> <li>■ 水稻作から他の作目に転換するという視点に加えて販路も業務用・加工用に特化していることは、新規性があると思う。地域内の高付加価値の作目の生産性向上に大きく貢献していると思う。</li> </ul>	

	<p><b>【改善が必要な点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 農業技術センターや市、JAなどとの連携の下で進められていると感じられるが、取組体制の説明がなかった。</li> <li>■ 報告内容からは、集落営農法人と県の農業部(普及部)との関係のみがクローズアップされており、他の関係諸機関が、このプロジェクトにどのように関わっているかがわからなかった。</li> <li>■ 機械導入によるコストが課題(費用対効果)</li> </ul>	<p><b>【改善が必要な点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織的な体制についての説明が不足していた。</li> <li>■ 報告では、課題や実践内容はとても分かりやすく示されていたが、支援する側である島根県側の支援機構、人員間の連携等、支援体制が示されていなかった。また、選定された集落営農法人の管内の生産者の中での位置づけがわかりづらかった。また、集落営農法人自体の経営概要が示されていないので、どのような経営なのかかわからなかった。</li> <li>■ 説明では、組織的な取り組みや、役割分担、連携が見えてこなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術的な成果については、非常に詳しく視覚的にもわかりやすくまとめられていた。</li> <li>■ 法人Aの受け身からの改善が見られた点が評価できる。</li> </ul> <p><b>【改善が必要な点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 栽培技術の定着に関しては、一部のみの報告であった。すべての問題について、どのような工夫がなされ克服されたのかを示すと良いと思った。</li> <li>■ タイトルに経営改善とあるが、技術的側面からのみの報告であった。経営改善が支援テーマであれば、経済的側面も分析・考察する必要があると思う。</li> <li>■ 機械操作が女性でも出来るとされるが、若手の女性が少ない農家でそれが可能なのか？他の組織や経営体で導入するためには課題が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前年の高温により品質低下、収量低下(小玉化)が多い中、収穫量の拡大は評価できる。</li> </ul> <p><b>【改善が必要な点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 次の視点をまとめて加えてほしい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落営農法人の経営収支上の課題と新規作目導入の効果(作目導入後の経営試算)</li> <li>・管内、県内他地域の事例データとの比較</li> <li>・集落営農の経営改善に資する加工・業務用キャベツの経営指標(単収・単価・収益率等)から逆算によって今回の普及活動を展開した場合の数値目標</li> </ul> </li> <li>■ 機械等への設備投資への課題はあったと感じた。</li> <li>■ 支援主体が支援のスキルをどのように向上しているかが、もう少し詳細に示されると良いと思う。</li> <li>■ JA や市、他の集落営農法人との関係性が示されると良かったかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機械導入にかかるコストについては、R6 使用機械の損益分岐点の結果を基にした、共同利用体制の整備などを課題として想定し、活動計画に反映させていく。</li> <li>○ 支援体制については、これまでと同様、技術普及部との連携を基本とする。特に、来年度から経営担当が配置される予定であることから、連携を密にしてゆく。</li> <li>○ これまでは、経営改善の第一歩として、最大の課題であった“モノ”をしっかりと作り上げることに視点をあて活動してきた。今後は未達成である収量や球重などの目標達成を目指しつつ、経済的な視点からのアプローチも進めていく。</li> </ul>
--	--	---	---	--	---

	<p><b>【自由意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県が推進する水田園芸の品目は、白ネギ、ブロッコリーなどもあるが、農業部は加工・業務用キャベツをなぜ選定したのか？現状の実績は？などの実態説明がほしかった。</li> <li>■ 加工・業務用キャベツの収益構造については、今回の目標とはやや異なる達成収量があろうかと推察するが、今回の栽培について単純に赤字と説明せず、経営収支の視点での考察がほしかった。</li> <li>■ 集落営農法人Aを対象に収益向上絶対条件である「増収」を最大目標としたことは、指導を受ける側にとって活動の目的が理解しやすいのでは。</li> <li>■ 関係諸機関との調整が全く取れていないことはないと思うので、冒頭で活動の主要な登場人物を出し、集落営農法人によるキャベツ生産の全体像が描かれると良いと思った。</li> <li>■ 目的が収益向上のための収量アップと目的がひとつなので誰が聞いても分かりやすい事例だったと思う。現在、またこれから取り組む生産者に対して良い指標となると感じる。</li> </ul>	<p><b>【自由意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 農業技術センター技術普及部が取り組んだ調査データを活用して、中耕、追肥、防除を機械化し、重量野菜であるキャベツの収穫作業の労働負担軽減を目指した取組だった。</li> <li>■ 関係機関との関係性や連携、役割分担が報告で示されればより良かったと思う。</li> <li>■ 栽培技術メインの活動であるので致し方ない部分はあるが、販売や機械導入など面で役割分担と目標があれば更に具体的な説明になると感じた。</li> </ul>	<p><b>【自由意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 機械操作に不慣れな女性も扱うことができることが実証できたことから、女性の新たな活躍の場として広がるのが期待できる。都市部(外部)からの女性の就農が増えることに伴い人口増もありえるのか。</li> <li>■ 取り組み始めてまだ間もないが、このような水稻栽培からの転換が普及すると、地域にとっても大きな経済的な波及効果が見られると思う。</li> <li>■ 活動実践農業者の感触や今後について、コメントがあると実感が更に湧くのではないかと思う。</li> <li>■ 管理作業が水稻優先になり、キャベツの生産性が低い事は農業をしている人ならわかることで、今後継続できるか問題があるのではないか。</li> </ul>	<p><b>【自由意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経営の安定のための「増収」を目標としながらも、女性でも作業(労働)軽減をアピールして、地域で女性が活躍する未来が描けそうな指導者の配慮が評価できる。</li> <li>■ 非常にわかりやすい発表と資料であった。</li> <li>■ 機械導入による省力化や軽労化が今後も続く人手不足・高齢化への対応としてより必要に感じた。他業種でも慢性的な人手不足に悩まされており、対応も同じく省力機器の導入などが考えられるが、この事例と同様大きな設備投資となり容易ではないものも多々ある。国や県が人手不足に対する省力機器の導入の補助金等を今よりさらに強化し、機械導入のハードルが少しでも下がれば、生産者の負担軽減+収入の改善にもつながるように感じた。</li> <li>■ 目指す品質と収量目標に近づけているので、今後とも現場とタイアップしながら更な</li> </ul>	
--	---	--	--	---	--

				<p>る取組の深化に期待。</p> <p>■機械の導入にしても、金銭面での負担が回収できるのか不安要素もあると思う。近隣法人との連携に期待し、収入増を目指して欲しい。</p>	
--	--	--	--	---	--